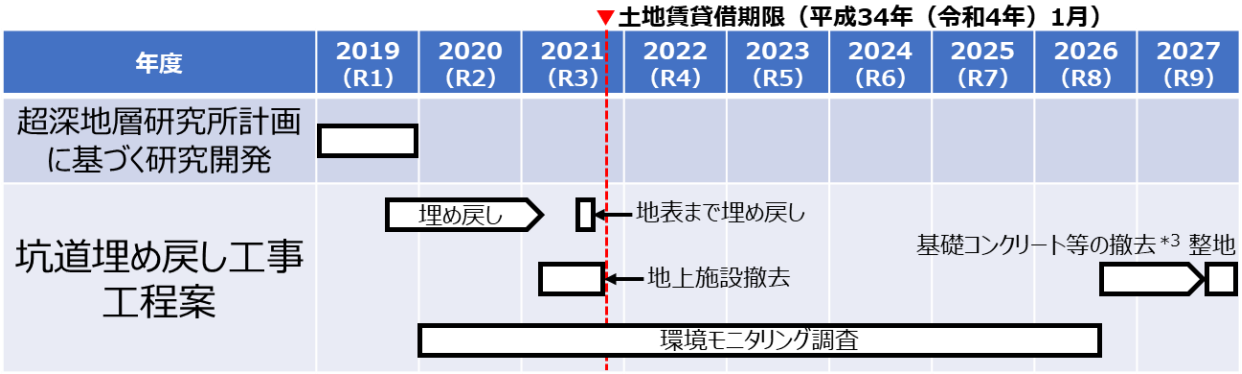
令和元年 8 月 8 日
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
東濃地科学センター

# 瑞浪超深地層研究所の埋め戻し工事工程案について

東濃地科学センターでは、第３期中長期計画 *1 に従い、瑞浪超深地層研究所の埋め戻しなどのその後の進め方を検討しています。

そのうち、中長期計画に示された3つの研究課題に関する成果を上げ、土地賃貸借期間の終了までに埋め戻しができるようにという前提で考えた埋め戻し工事工程案について、研究所用地の地権者である瑞浪市と協議を進めてまいりましたが、今般、一定の進捗が得られ、工程案については下記の通り、瑞浪市と合意に至りましたのでご報告致します。

なお、これまでの研究開発成果や坑道の埋め戻しに伴う環境モニタリング調査 *2 の内容がまとまり次第、研究所の埋め戻しなどのその後の進め方に関する計画案について関係自治体等と調整してまいります。




**※今後の協議を通じて計画案を取りまとめるなかで正式な工程について確定させてまいります。**

**＊1　第３期中長期計画**
超深地層研究所計画については、地下坑道における工学的対策技術の開発、物質移動モデル化技術の開発及び坑道埋め戻し技術の開発に重点的に取り組む。これらに関する研究については、平成 31 年度末までの 5 年間で成果を出すことを前提に取り組む。また、同年度末までに、跡利用を検討するための委員会での議論も踏まえ、土地賃貸借期間の終了（平成 34 年 1 月）までに埋め戻しができるようにという前提で考え、坑道埋め戻しなどのその後の進め方について決定する。

**＊2　環境モニタリング調査**
坑道埋め戻しに伴う地下水の回復状況の確認及び埋め戻し後の安全確保のため、地上で地下水の水圧・水質を対象とした環境モニタリング調査を坑道埋め戻し中及び埋め戻し完了後5年程度を目途に継続します。
なお、埋め戻し後の地下水の環境モニタリング調査に必要となる一部の土地等については、現在の土地賃貸借期間の終了後に、改めてお借りすることで、今後、瑞浪市と協議を進めてまいります。
また、従来より実施している研究所周辺における環境への影響の有無を確認するための河川水の水質及び騒音・振動調査については、引き続き実施してまいります。

**＊3　基礎コンクリート等の撤去**
期間は現時点で約 11 ヶ月を想定しております。

以上